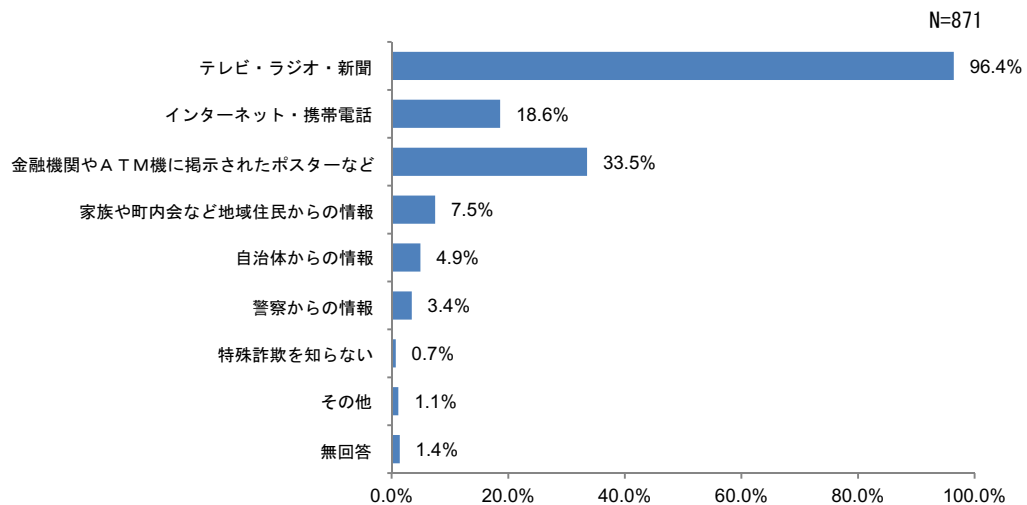


6 振り込め詐欺をはじめとする特殊詐欺について

問1 あなたは、何により特殊詐欺のことを知りましたか。次の中から2つまでお選びください。



【全体】

「テレビ・ラジオ・新聞」(96.4%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「金融機関やATM機に掲示されたポスターなど」(33.5%)、「インターネット・携帯電話」(18.6%)の順となっている。

【圏域別】

「テレビ・ラジオ・新聞」については、オホーツク圏(100.0%)が最も割合が高く、次いで道北圏(98.9%)となっている。「金融機関やATM機に掲示されたポスターなど」については、オホーツク圏(43.6%)が最も割合が高く、次いで道南圏(37.2%)となっている。

【人口規模別】

「テレビ・ラジオ・新聞」については、人口10万人以上の都市(96.7%)が最も割合が高く、次いで札幌市(96.6%)となっている。「金融機関やATM機に掲示されたポスターなど」については、札幌市(36.9%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の都市(34.8%)となっている。

【性別】

「テレビ・ラジオ・新聞」については、男性95.6%、女性97.4%となっており、「金融機関やATM機に掲示されたポスターなど」については、男性30.1%、女性36.4%となっている。

【年代別】

「テレビ・ラジオ・新聞」については、20~29歳(100.0%)が最も割合が高く、次いで40~49歳(97.1%)と50~59歳(97.1%)となっている。「金融機関やATM機に掲示されたポスターなど」については、70歳以上(40.0%)が最も割合が高く、次いで60~69歳(35.8%)となっている。

【職種別】

「テレビ・ラジオ・新聞」については、学生(100.0%)が最も割合が高く、次いで事務職系(99.4%)となっている。「金融機関やATM機に掲示されたポスターなど」については、無職(37.0%)が最も割合が高く、次いでその他(35.7%)となっている。

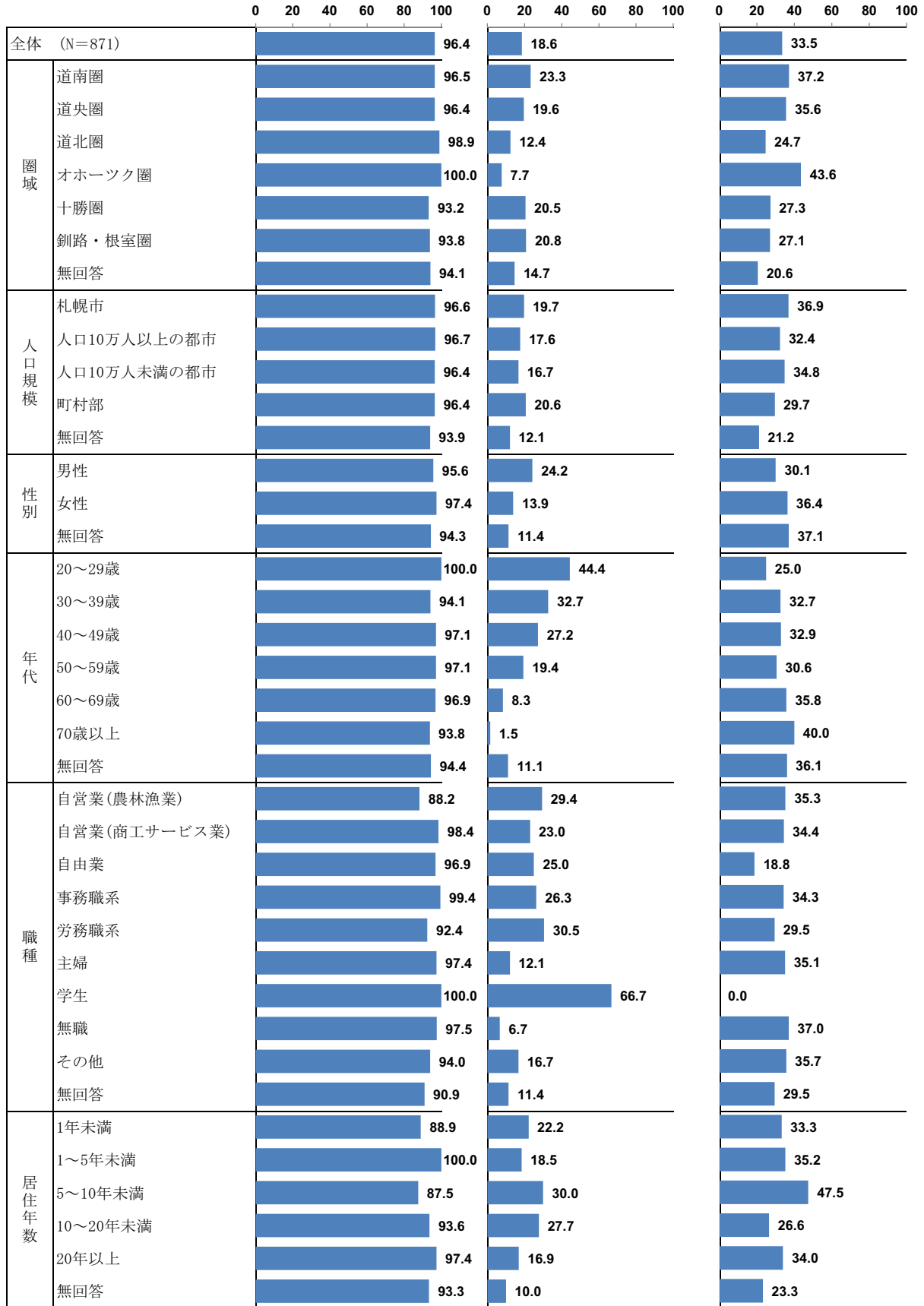
【居住年数別】

「テレビ・ラジオ・新聞」については、1~5年未満(100.0%)が最も割合が高く、次いで20年以上(97.4%)となっている。「金融機関やATM機に掲示されたポスターなど」については、5~10年未満(47.5%)が最も割合が高く、次いで1~5年未満(35.2%)となっている。

テレビ・ラジオ・新聞

インターネット・携帯電話

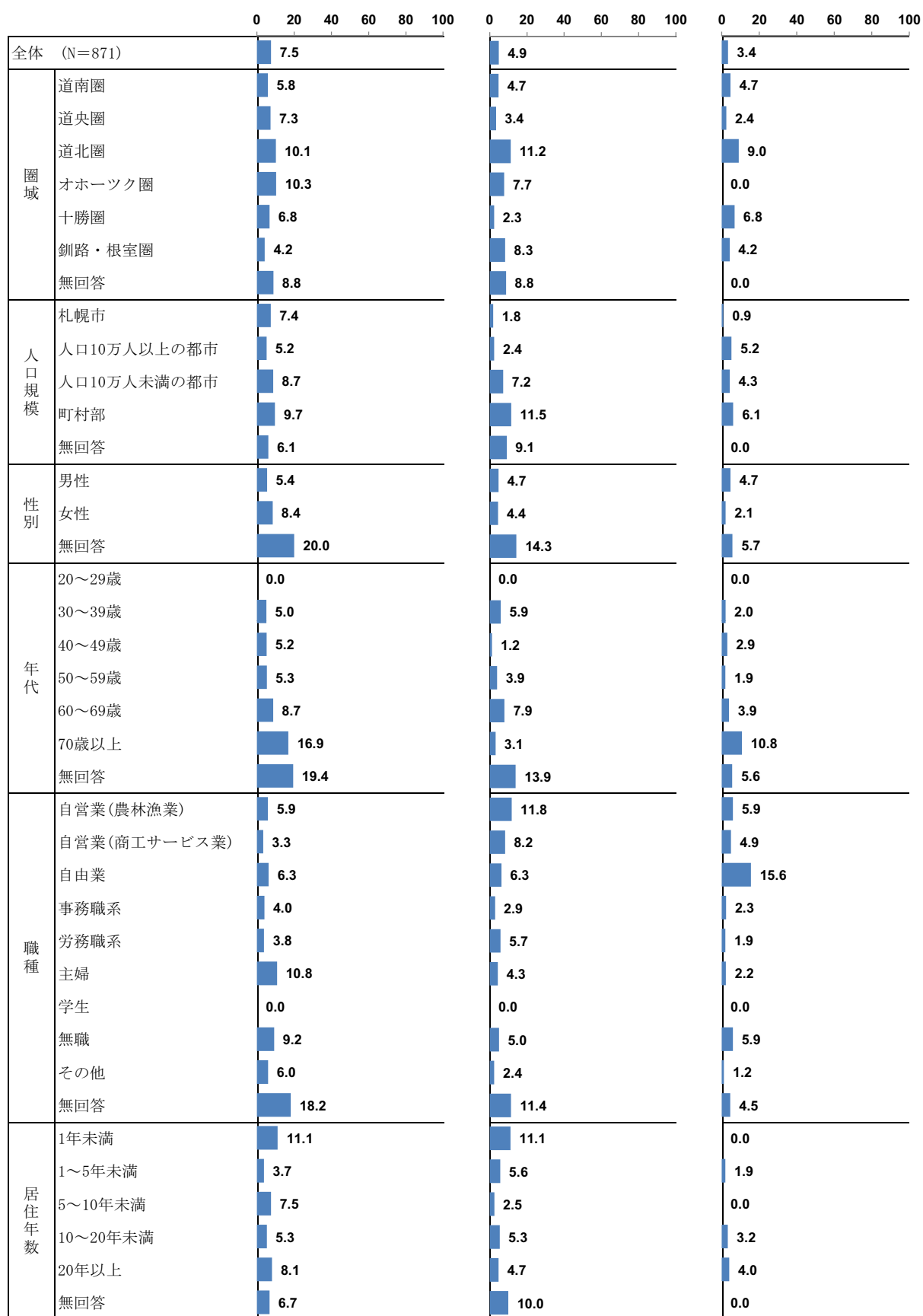
金融機関やATM機に掲示されたポスターなど

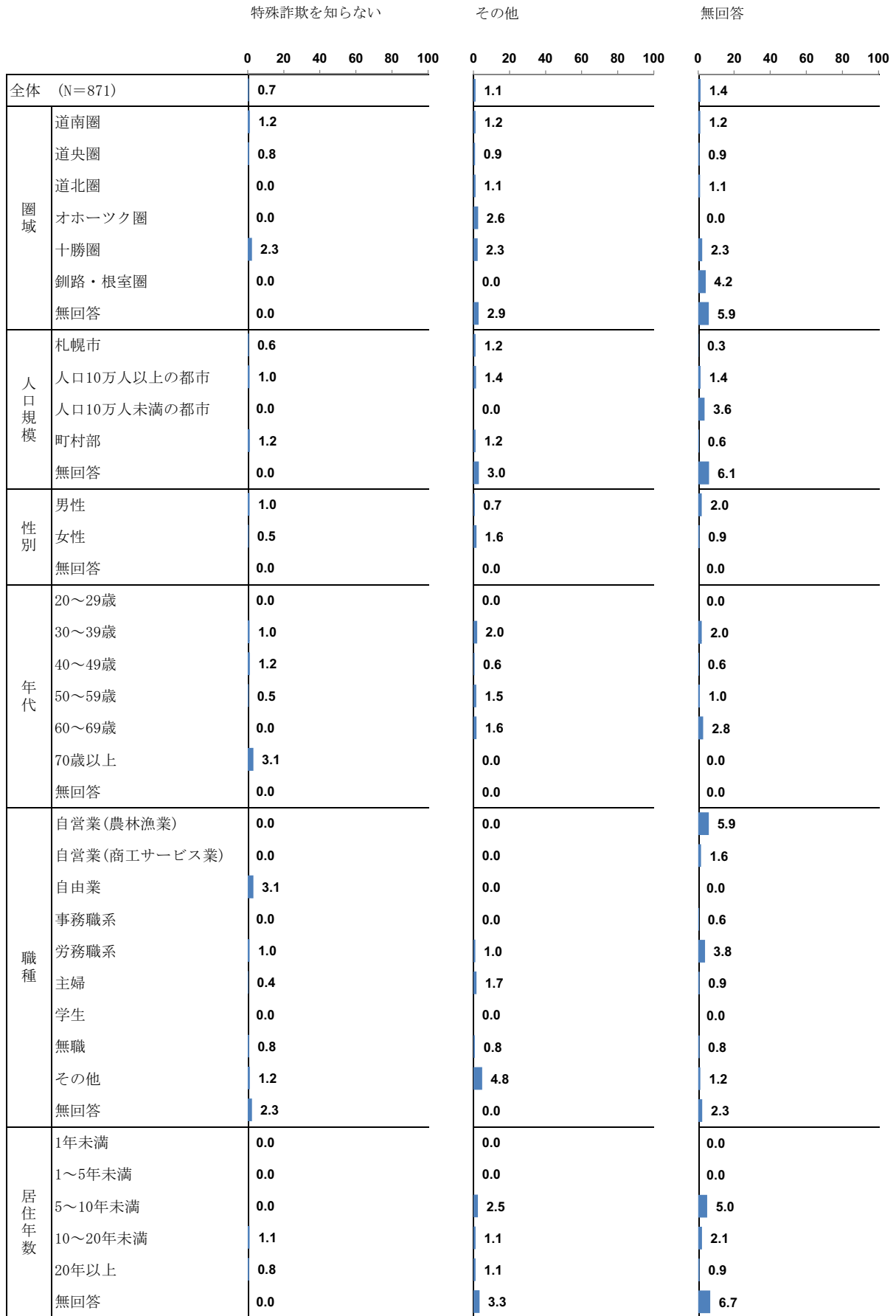


家族や町内会など地域住民からの情報

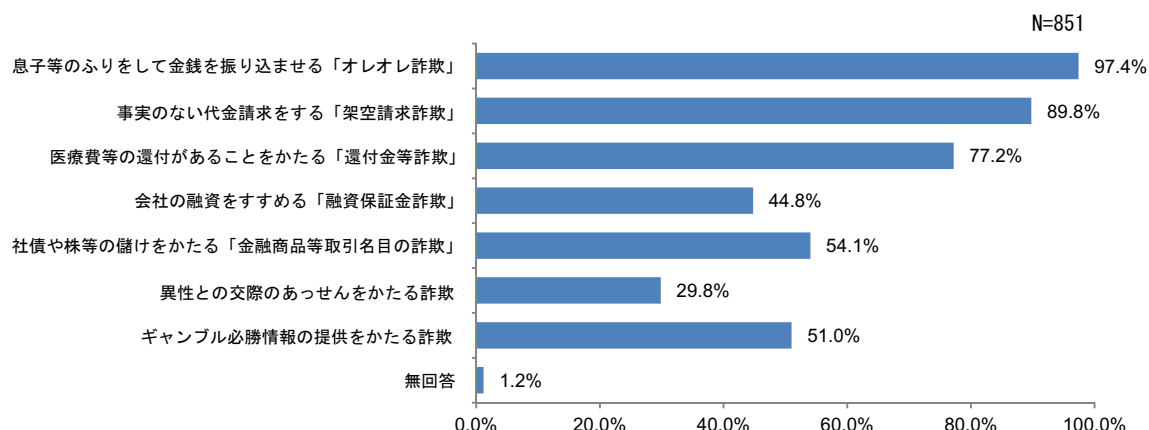
自治体からの情報

警察からの情報





問2 ※「問1」で選択肢「1～6」を選んだ方のみお答えください。あなたが特殊詐欺で知っている手口は何ですか。次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「息子等のふりをして金銭を振り込ませる「オレオレ詐欺」(97.4%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「事実のない代金請求をする「架空請求詐欺」(89.8%)、「医療費等の還付があることをかたる「還付金等詐欺」(77.2%)の順となっている。

【圏域別】

「息子等のふりをして金銭を振り込ませる「オレオレ詐欺」については、道南圏(98.8%)が最も割合が高く、次いで道央圏(97.9%)となっている。「事実のない代金請求をする「架空請求詐欺」については、道南圏(95.2%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室圏(93.5%)となっている。

【人口規模別】

「息子等のふりをして金銭を振り込ませる「オレオレ詐欺」については、札幌市(98.4%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の都市(97.7%)となっている。「事実のない代金請求をする「架空請求詐欺」については、札幌市(91.3%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の都市(91.0%)となっている。

【性別】

「息子等のふりをして金銭を振り込ませる「オレオレ詐欺」については、男性97.5%、女性97.2%となっており、「事実のない代金請求をする「架空請求詐欺」については、男性87.8%、女性91.5%となっている。

【年代別】

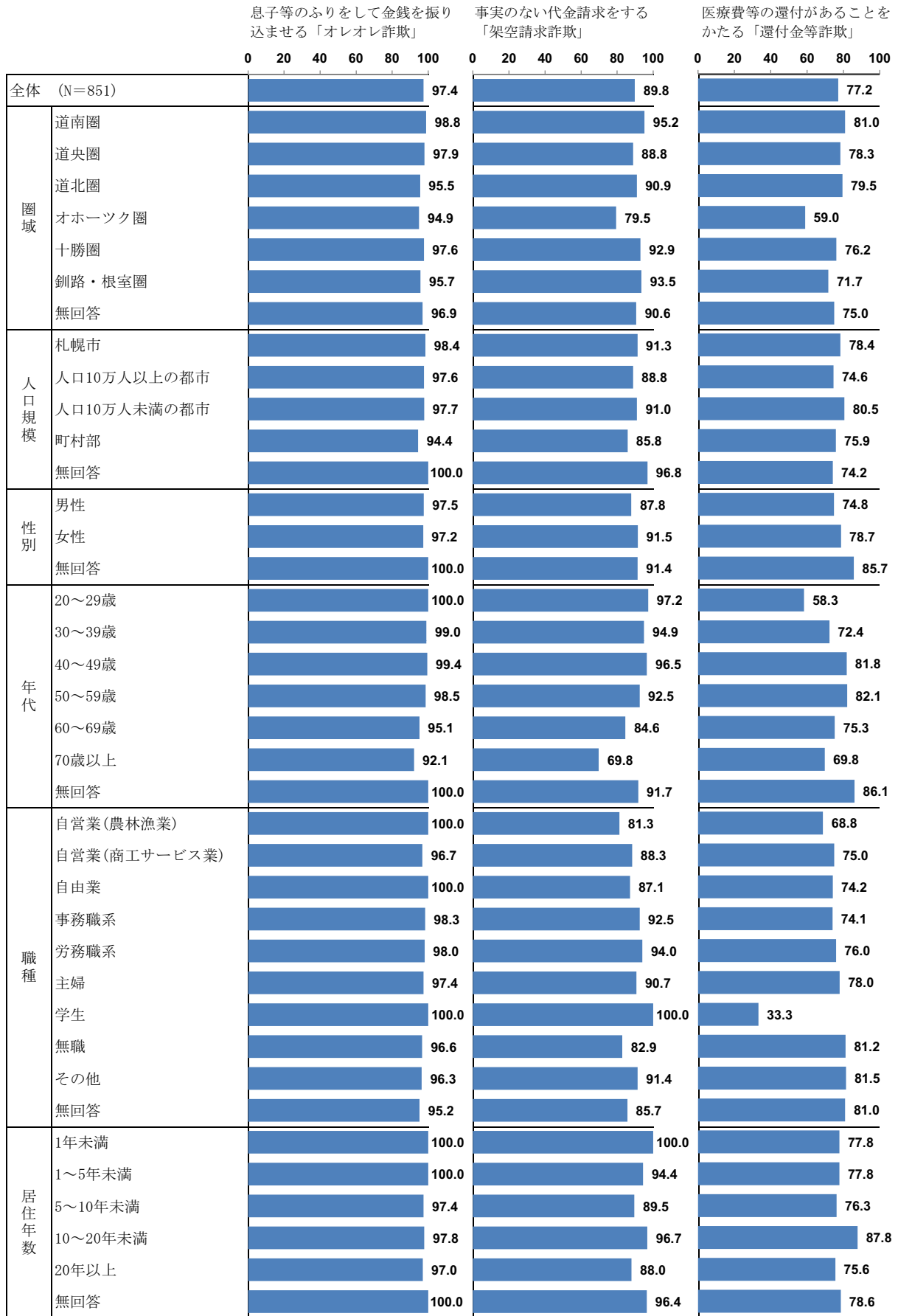
「息子等のふりをして金銭を振り込ませる「オレオレ詐欺」については、20～29歳(100.0%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(99.4%)となっている。「事実のない代金請求をする「架空請求詐欺」については、20～29歳(97.2%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(96.5%)となっている。

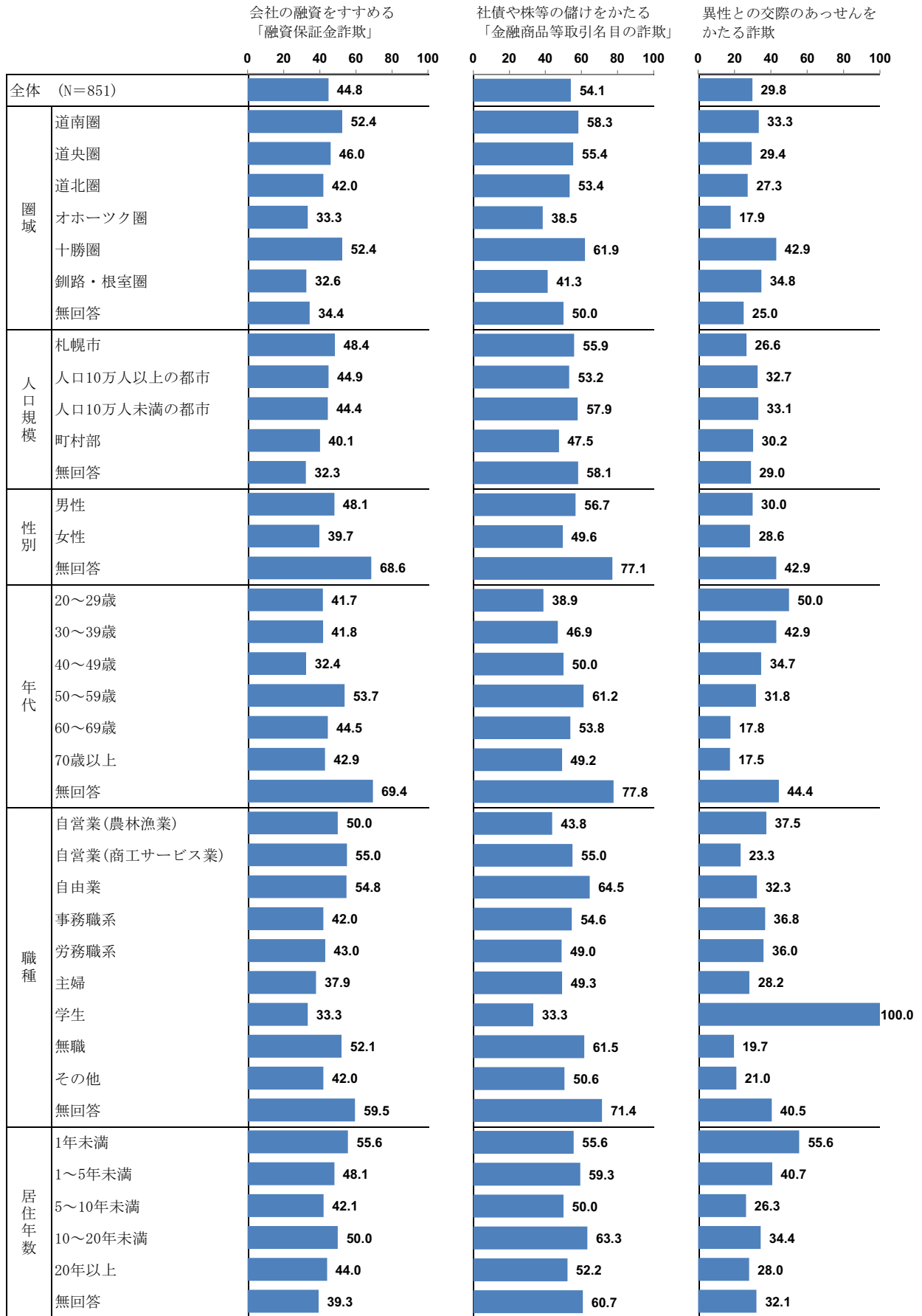
【職種別】

「息子等のふりをして金銭を振り込ませる「オレオレ詐欺」については、自営業(農林漁業)(100.0%)、自由業(100.0%)、学生(100.0%)が最も割合が高く、次いで事務職系(98.3%)となっている。「事実のない代金請求をする「架空請求詐欺」については、学生(100.0%)が最も割合が高く、次いで労務職系(94.0%)となっている。

【居住年数別】

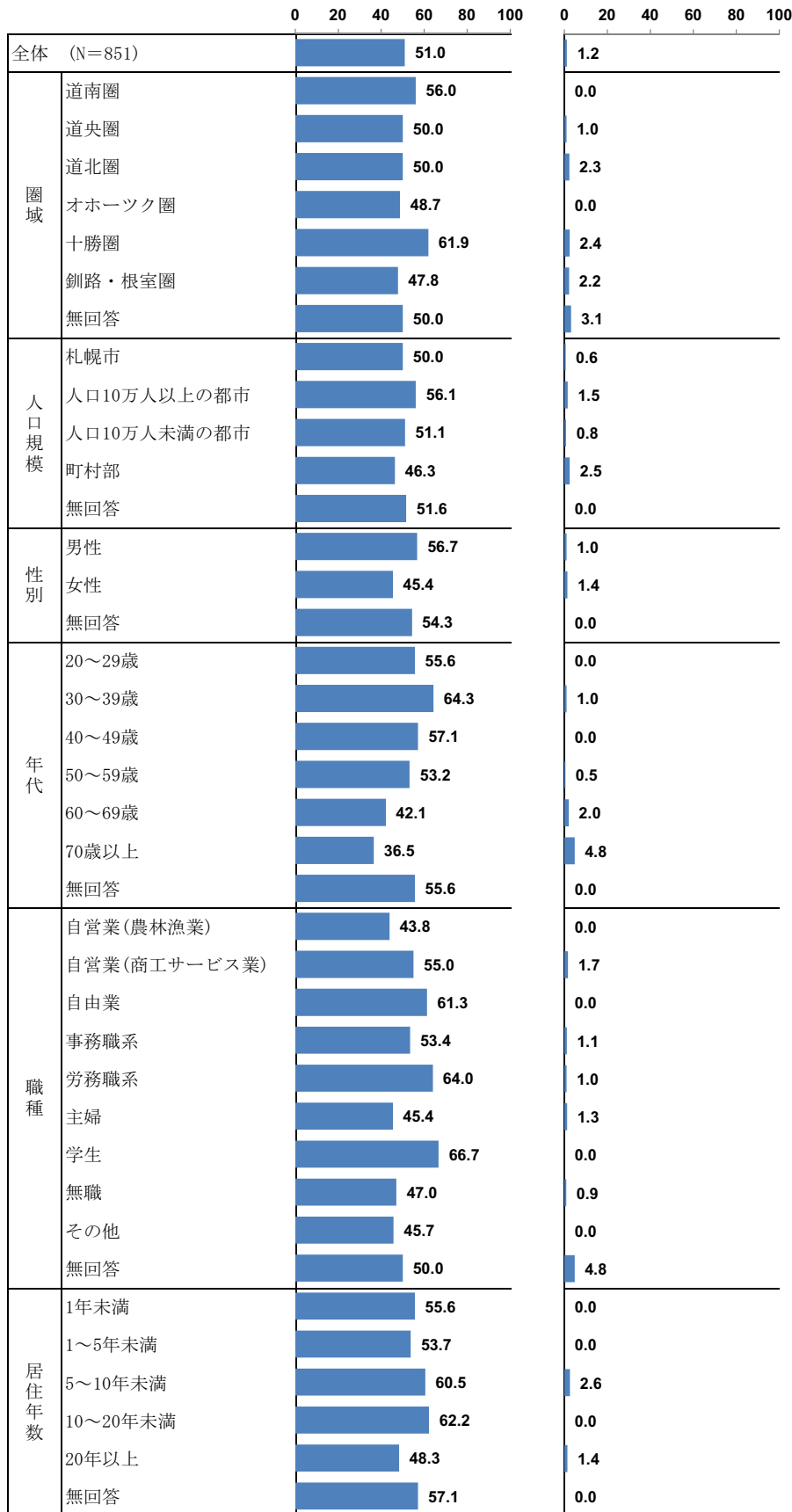
「息子等のふりをして金銭を振り込ませる「オレオレ詐欺」については、1年未満(100.0%)と1～5年未満(100.0%)が最も割合が高く、次いで10～20年未満(97.8%)となっている。「事実のない代金請求をする「架空請求詐欺」については、1年未満(100.0%)が最も割合が高く、次いで10～20年未満(96.7%)となっている。



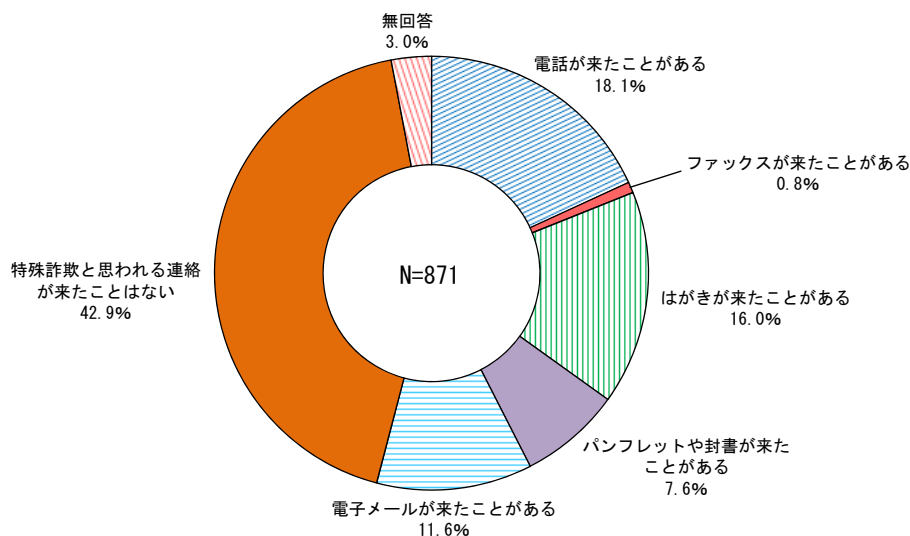


ギャンブル必勝情報の提供を
かたる詐欺

無回答



問3 あなたは、過去に特殊詐欺に関してどのような連絡を受けたことがありますか。
次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「特殊詐欺と思われる連絡が来たことはない」(42.9%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「電話が来たことがある」(18.1%)、「はがきが来たことがある」(16.0%)の順となっている。

【圏域別】

「特殊詐欺と思われる連絡が来たことはない」については、オホーツク圏(51.3%)が最も割合が高く、次いで道央圏(43.3%)となっている。「電話が来たことがある」については、道北圏(21.3%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室圏(20.8%)となっている。

【人口規模別】

「特殊詐欺と思われる連絡が来たことはない」については、札幌市(44.6%)が最も割合が高く、次いで町村部(43.0%)となっている。「電話が来たことがある」については、人口10万人以上の都市(21.9%)が最も割合が高く、次いで町村部(20.0%)となっている。

【性別】

「特殊詐欺と思われる連絡が来たことはない」については、男性44.4%、女性41.3%となっており、「電話が来たことがある」については、男性20.5%、女性15.8%となっている。

【年代別】

「特殊詐欺と思われる連絡が来たことはない」については、70歳以上(55.4%)が最も割合が高く、次いで20～29歳(52.8%)となっている。「電話が来たことがある」については、60～69歳(24.0%)が最も割合が高く、次いで70歳以上(21.5%)となっている。

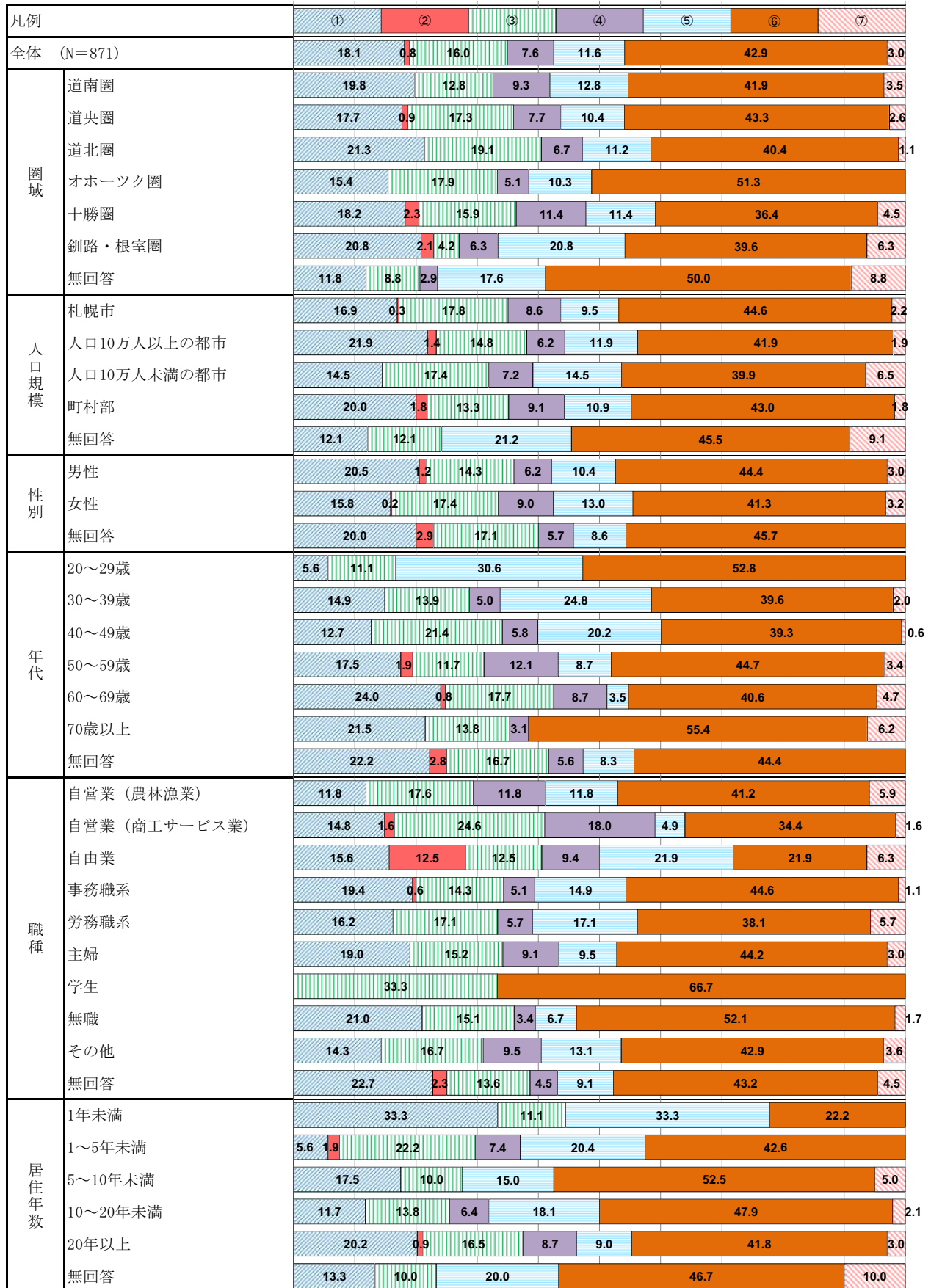
【職種別】

「特殊詐欺と思われる連絡が来たことはない」については、学生(66.7%)が最も割合が高く、次いで無職(52.1%)となっている。「電話が来たことがある」については、無職(21.0%)が最も割合が高く、次いで事務職系(19.4%)となっている。

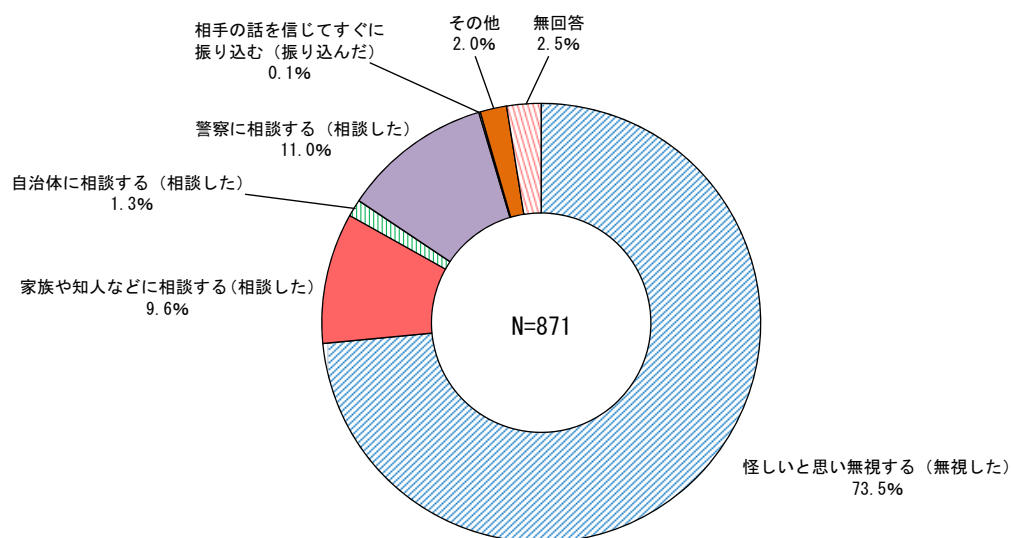
【居住年数別】

「特殊詐欺と思われる連絡が来たことはない」については、5～10年未満(52.5%)が最も割合が高く、次いで10～20年未満(47.9%)となっている。「電話が来たことがある」については、1年未満(33.3%)が最も割合が高く、次いで20年以上(20.2%)となっている。

①電話が来たことがある ②ファックスが来たことがある ③はがきが来たことがある
 ④パンフレットや封書が来たことがある ⑤電子メールが来たことがある
 ⑥特殊詐欺と思われる連絡が来たことはない ⑦無回答
 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問4 特殊詐欺と思われる内容の連絡を受けた場合、あなたはどのように対応しますか（過去に対応したことがあるでも可）。次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「怪しいと思い無視する（無視した）」（73.5%）と答えた人の割合が最も高く、次いで「警察に相談する（相談した）」（11.0%）、「家族や知人などに相談する（相談した）」（9.6%）の順となっている。

【圏域別】

「怪しいと思い無視する（無視した）」については、道南圏（80.2%）が最も割合が高く、次いで道北圏（75.3%）となっている。「警察に相談する（相談した）」については、オホーツク圏（15.4%）が最も割合が高く、次いで釧路・根室圏（12.5%）となっている。

【人口規模別】

「怪しいと思い無視する（無視した）」については、人口10万人未満の都市（77.5%）が最も割合が高く、次いで町村部（75.2%）となっている。「警察に相談する（相談した）」については、町村部（11.5%）が最も割合が高く、次いで札幌市（11.4%）となっている。

【性別】

「怪しいと思い無視する（無視した）」については、男性75.6%、女性71.7%となっており、「警察に相談する（相談した）」については、男性12.1%、女性9.7%となっている。

【年代別】

「怪しいと思い無視する（無視した）」については、30～39歳（76.2%）が最も割合が高く、次いで40～49歳（75.7%）となっている。「警察に相談する（相談した）」については、70歳以上（18.5%）が最も割合が高く、次いで60～69歳（13.4%）となっている。

【職種別】

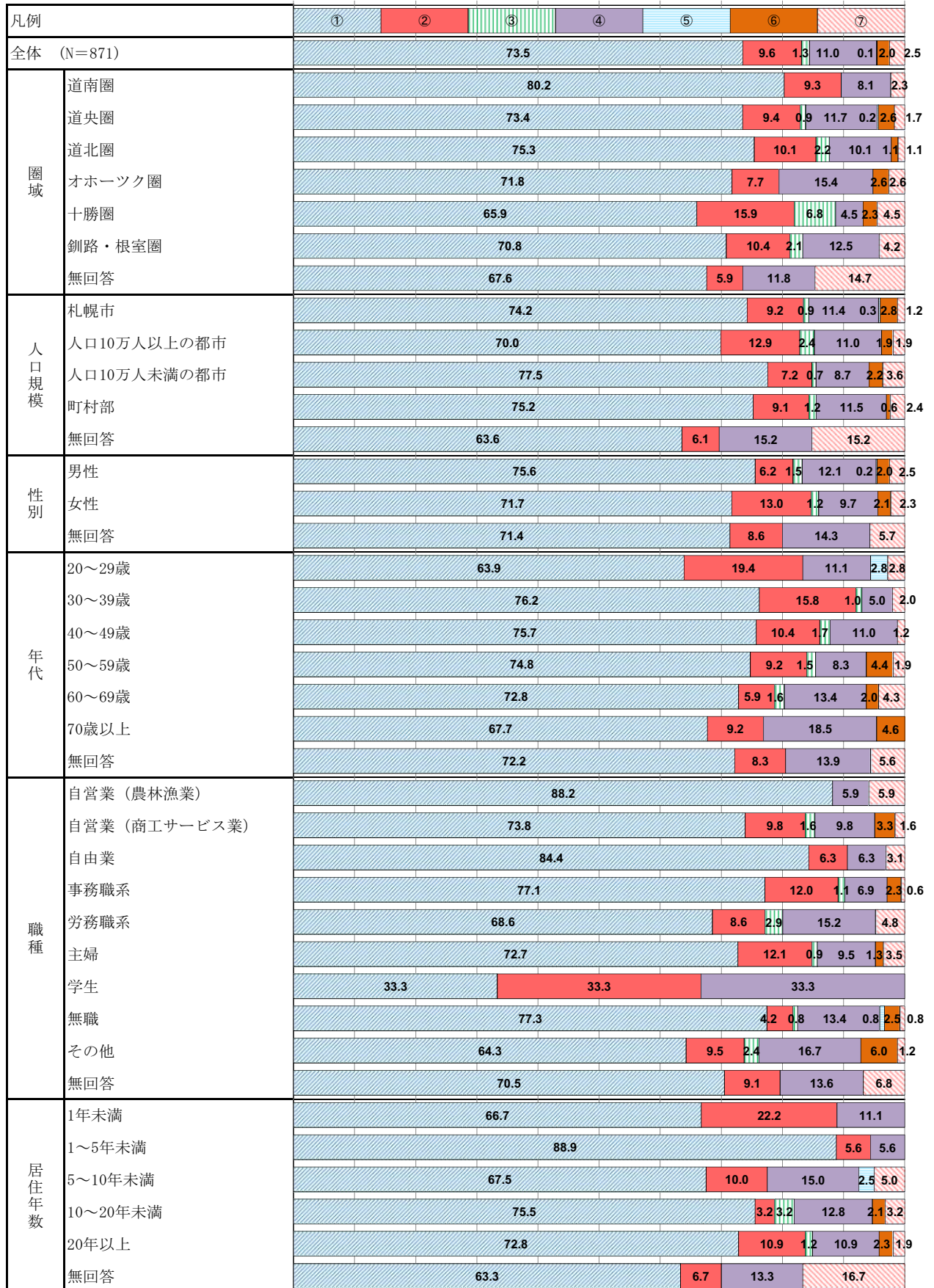
「怪しいと思い無視する（無視した）」については、自営業（農林漁業）（88.2%）が最も割合が高く、次いで自由業（84.4%）となっている。「警察に相談する（相談した）」については、学生（33.3%）が最も割合が高く、次いでその他（16.7%）となっている。

【居住年数別】

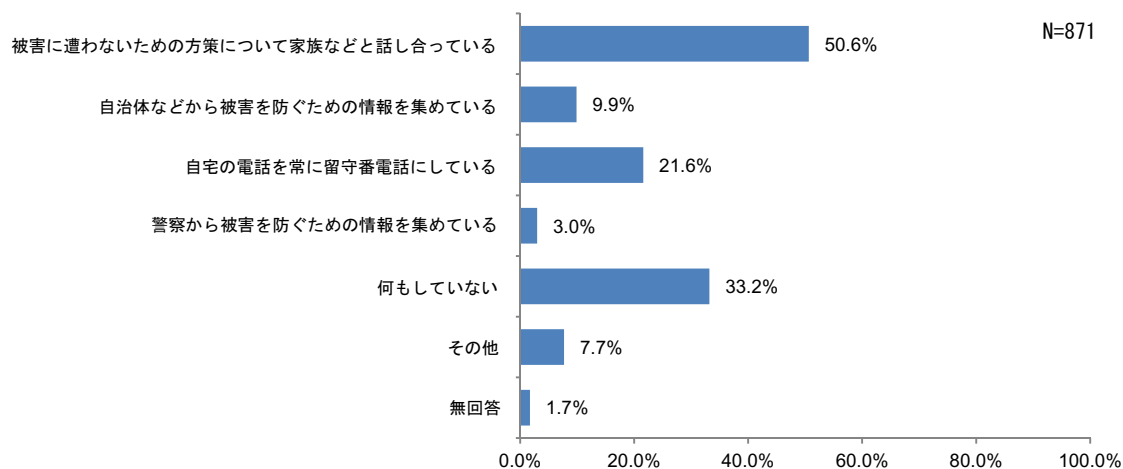
「怪しいと思い無視する（無視した）」については、1～5年未満（88.9%）が最も割合が高く、次いで10～20年未満（75.5%）となっている。「警察に相談する（相談した）」については、5～10年未満（15.0%）が最も割合が高く、次いで10～20年未満（12.8%）となっている。

①怪しいと思い無視する（無視した） ②家族や知人などに相談する（相談した）
 ③自治体に相談する（相談した） ④警察に相談する（相談した）
 ⑤相手の話を信じてすぐに振り込む（振り込んだ） ⑥その他 ⑦無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問5 あなたは、特殊詐欺の被害に遭わないためにどのようなことをしていますか。
次の中から2つまでお選びください。



【全体】

「被害に遭わないための方策について家族などと話し合っている」(50.6%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「何もしていない」(33.2%)、「自宅の電話を常に留守番電話にしている」(21.6%)の順となっている。

【圏域別】

「被害に遭わないための方策について家族などと話し合っている」については、釧路・根室圏(60.4%)が最も割合が高く、次いでオホーツク圏(56.4%)となっている。「何もしていない」については、オホーツク圏(35.9%)が最も割合が高く、次いで道南圏(34.9%)となっている。

【人口規模別】

「被害に遭わないための方策について家族などと話し合っている」については、町村部(60.0%)が最も割合が高く、次いで札幌市(49.8%)となっている。「何もしていない」については、札幌市(35.7%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の都市(34.8%)となっている。

【性別】

「被害に遭わないための方策について家族などと話し合っている」については、男性52.8%、女性49.0%となっており、「何もしていない」については、男性34.8%、女性31.1%となっている。

【年代別】

「被害に遭わないための方策について家族などと話し合っている」については、70歳以上(69.2%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(59.1%)となっている。「何もしていない」については、20～29歳(69.4%)が最も割合が高く、次いで30～39歳(44.6%)となっている。

【職種別】

「被害に遭わないための方策について家族などと話し合っている」については、無職(64.7%)が最も割合が高く、次いで自営業(商工サービス業)(63.9%)となっている。「何もしていない」については、自由業(43.8%)が最も割合が高く、次いで労務職系(42.9%)となっている。

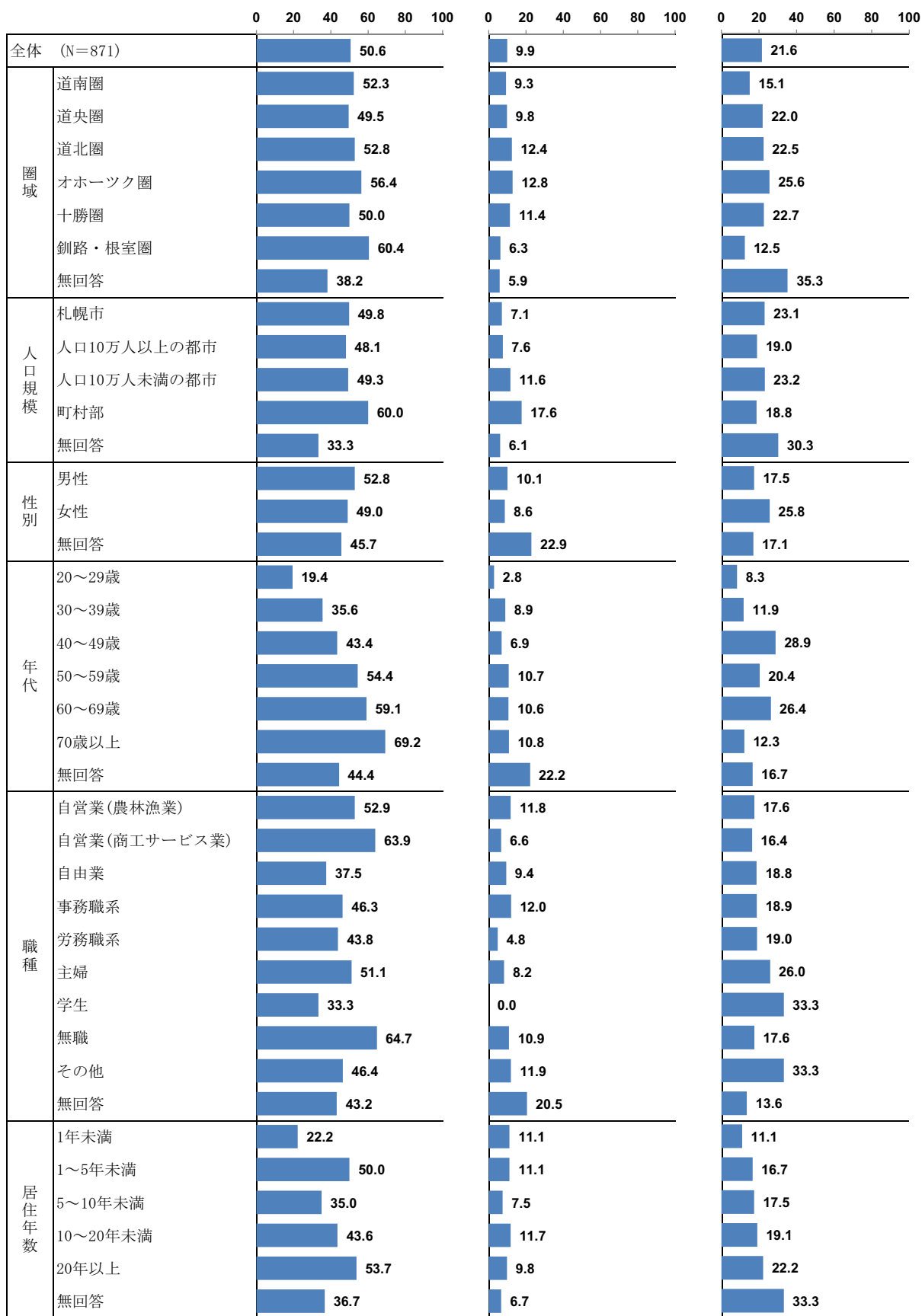
【居住年数別】

「被害に遭わないための方策について家族などと話し合っている」については、20年以上(53.7%)が最も割合が高く、次いで1～5年未満(50.0%)となっている。「何もしていない」については、1年未満(66.7%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(42.5%)となっている。

被害に遭わないための方策について家族などと話し合っている

自治体などから被害を防ぐための情報を集めている

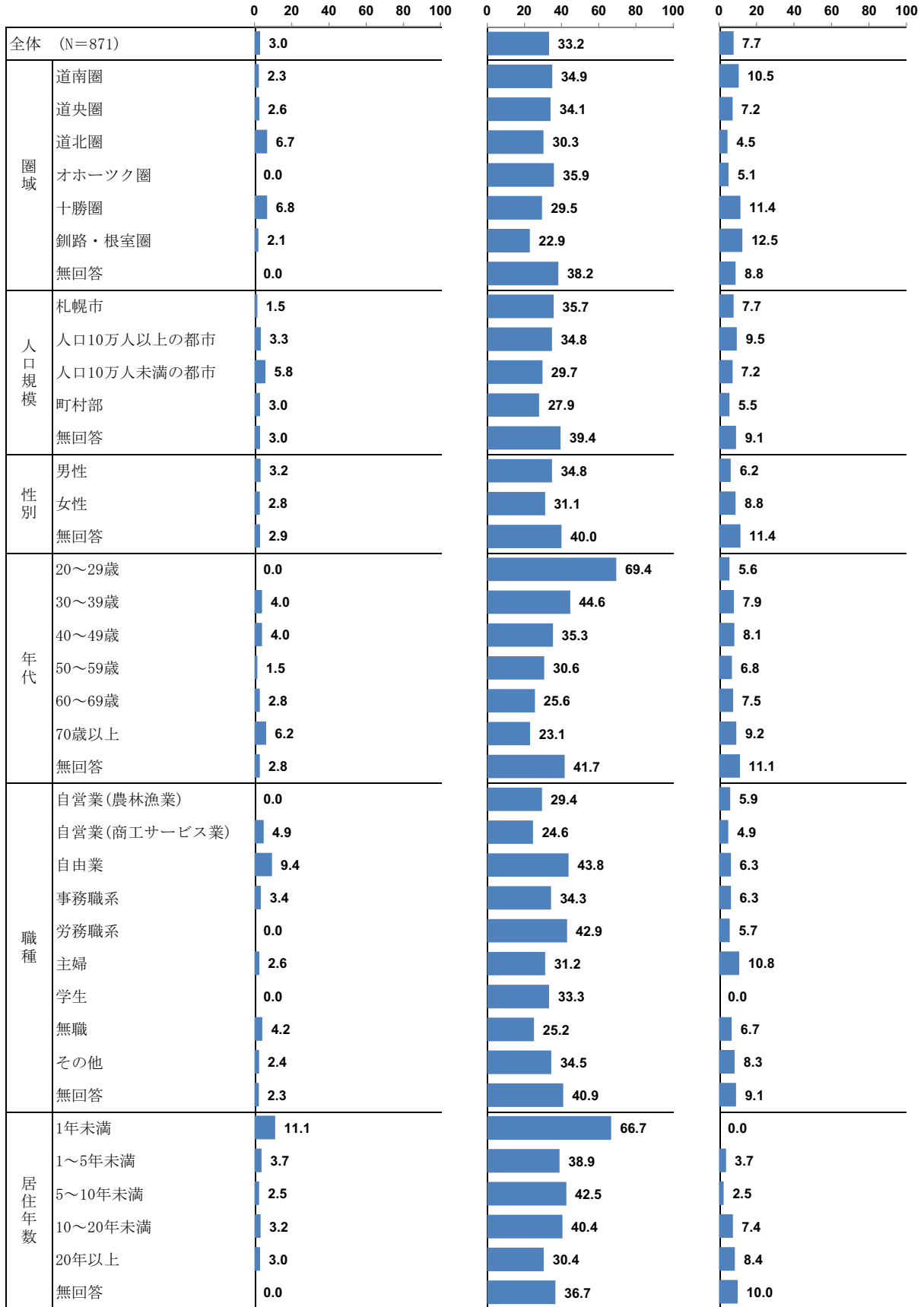
自宅の電話を常に留守番電話にしている



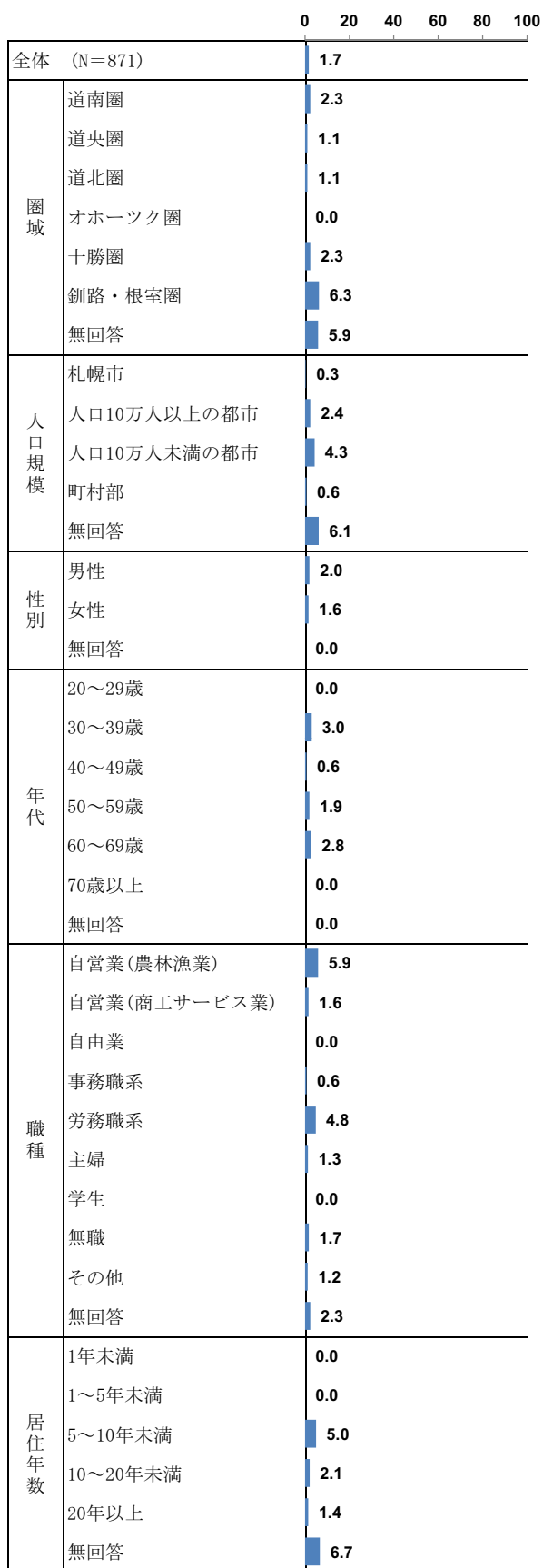
警察から被害を防ぐための情報を集めている

何もしていない

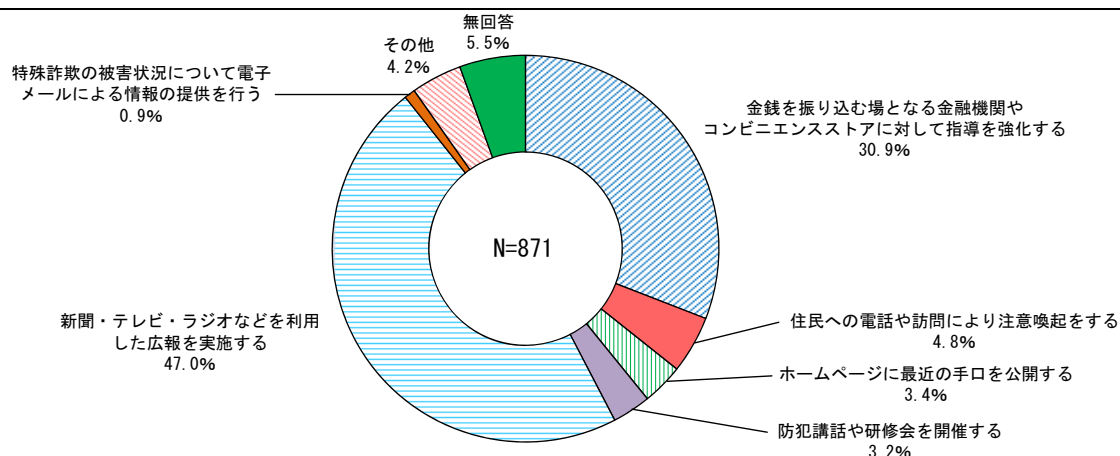
その他



無回答



問6 あなたは、特殊詐欺の被害を防ぐために、警察や行政などの機関がどのようなことをすべきだと思いますか。次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「新聞・テレビ・ラジオなどを利用した広報を実施する」（47.0%）と答えた人の割合が最も高く、次いで「金銭を振り込む場となる金融機関やコンビニエンスストアに対して指導を強化する」（30.9%）、「住民への電話や訪問により注意喚起をする」（4.8%）の順となっている。

【圏域別】

「新聞・テレビ・ラジオなどを利用した広報を実施する」については、十勝圏（54.5%）が最も割合が高く、次いで道北圏（48.3%）となっている。「金銭を振り込む場となる金融機関やコンビニエンスストアに対して指導を強化する」については、道央圏（32.4%）が最も割合が高く、次いで道北圏（29.2%）となっている。

【人口規模別】

「新聞・テレビ・ラジオなどを利用した広報を実施する」については、人口10万人以上の都市（51.9%）が最も割合が高く、次いで札幌市（49.8%）となっている。「金銭を振り込む場となる金融機関やコンビニエンスストアに対して指導を強化する」については、人口10万人未満の都市（36.2%）が最も割合が高く、次いで札幌市（32.3%）となっている。

【性別】

「新聞・テレビ・ラジオなどを利用した広報を実施する」については、男性50.6%、女性47.1%となっており、「金銭を振り込む場となる金融機関やコンビニエンスストアに対して指導を強化する」については、男性28.6%、女性35.3%となっている。

【年代別】

「新聞・テレビ・ラジオなどを利用した広報を実施する」については、30～39歳（54.5%）が最も割合が高く、次いで50～59歳（50.5%）となっている。「金銭を振り込む場となる金融機関やコンビニエンスストアに対して指導を強化する」については、70歳以上（44.6%）が最も割合が高く、次いで20～29歳（36.1%）となっている。

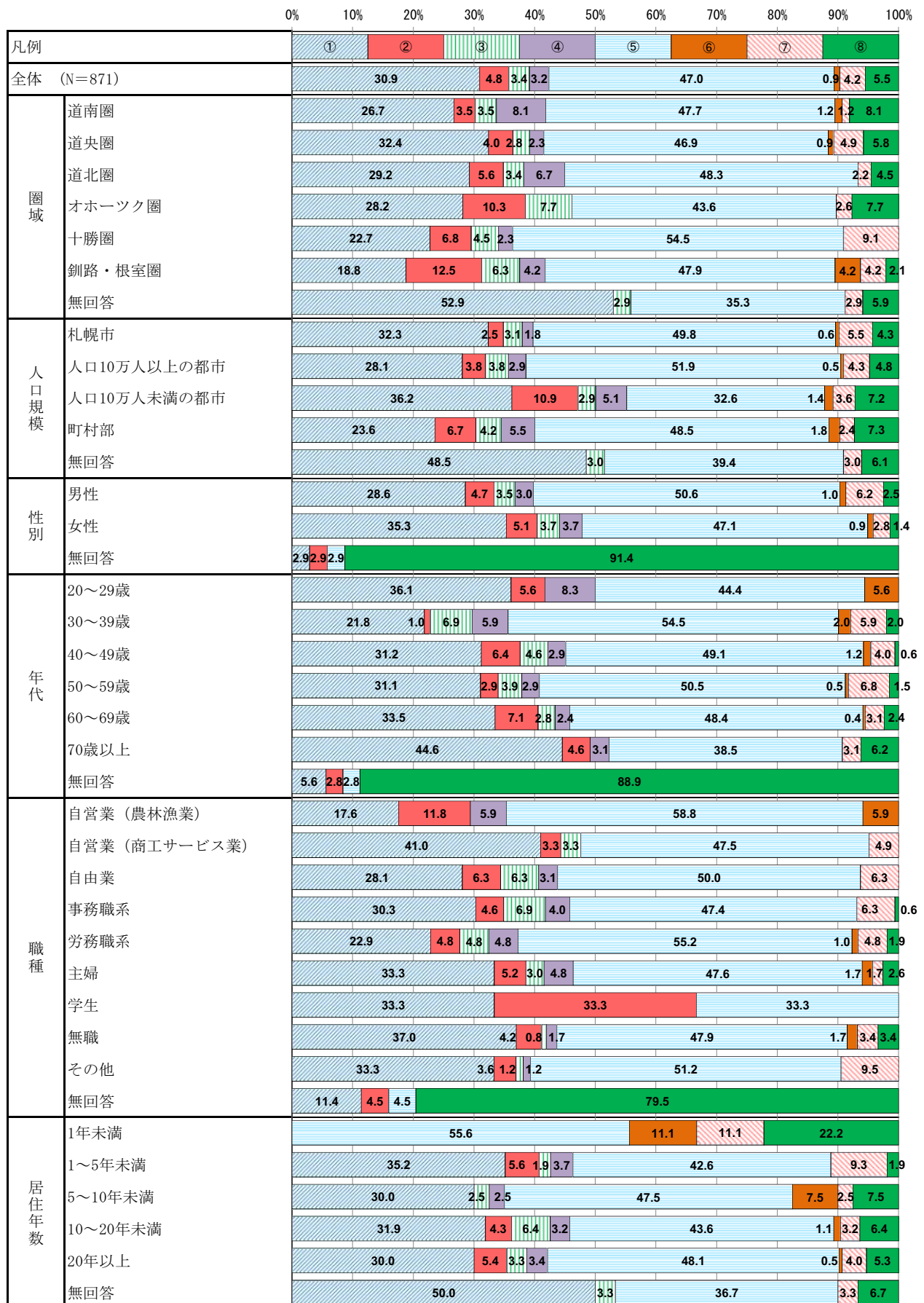
【職種別】

「新聞・テレビ・ラジオなどを利用した広報を実施する」については、自営業（農林漁業）（58.8%）が最も割合が高く、次いで労務職系（55.2%）となっている。「金銭を振り込む場となる金融機関やコンビニエンスストアに対して指導を強化する」については、自営業（商工サービス業）（41.0%）が最も割合が高く、次いで無職（37.0%）となっている。

【居住年数別】

「新聞・テレビ・ラジオなどを利用した広報を実施する」については、1年未満（55.6%）が最も割合が高く、次いで20年以上（48.1%）となっている。「金銭を振り込む場となる金融機関やコンビニエンスストアに対して指導を強化する」については、1～5年未満（35.2%）が最も割合が高く、次いで10～20年未満（31.9%）となっている。

- ①金銭を振り込む場となる金融機関やコンビニエンスストアに対して指導を強化する
 ②住民への電話や訪問により注意喚起をする ③ホームページに最近の手口を公開する
 ④防犯講話や研修会を開催する ⑤新聞・テレビ・ラジオなどを利用した広報を実施する
 ⑥特殊詐欺の被害状況について電子メールによる情報の提供を行う ⑦その他 ⑧無回答



「振り込め詐欺をはじめとする特殊詐欺について」の調査を終えて

道内における平成 26 年上半期における特殊詐欺認知件数は 110 件、被害金額は約 4 億 9 千万円であり、前年同期と比較して増加している。

平成 26 年度道民意識調査の結果、特殊詐欺をテレビ・ラジオ・新聞で知った人の割合は 96.4%であり、特殊詐欺被害の認知度は高い状況にある。

内容を具体的に見ると、特殊詐欺に関する連絡を過去に受けたことがある人が半数以上という状況であり、被害に遭わないための方策としては、「家族などと話し合っている」や「自宅の電話を常に留守番電話にしている」人の割合が高い状況にある。

さらに、警察や行政などの機関が取るべき被害対策として、「新聞・テレビ・ラジオなどを利用した広報の実施」や「金銭を振り込む場となる金融機関やコンビニエンスストアに対する指導の強化」を求める人の割合が高い状況にある。

今後は、こうした結果を踏まえ、各種広報媒体を活用して迅速に情報を発信するとともに、関係機関と緊密に連携を図り、一体となって特殊詐欺の被害防止に向けた活動を強化し、安全で安心な地域づくりを進めていく。

(北海道警察本部生活安全部生活安全企画課)